

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

ても、教材の宝庫であると感じている。

社会科は、よりよい社会を築いて持続させようとす る人間の営みを理解し、自らよりよい社会づくりに参画する態度を培う教科である。

一方、新聞は子どもたちに社会事象を目の当たりにさせる絶好の教材である。そこから社会の「今のある

私は現在、毎日3紙を讀んでいる。どれを見ても面白いし、それぞれから価値ある情報と新鮮な感動をもらっている。新聞は社会の「今の姿」を、「過去の足跡」を、「未来の方向」を私たちに的確に伝え見せてくる。

今年掲載された新聞の記事を読み、家族や友人などと意見を交わして考えを深め、感想文をまとめる

優秀

最優秀は新潟の小6生ら

優秀賞道内から2人

た記事（6月17日、北海道新聞）を選び、「スー・チーさんの強い気持ちと、それを見た世界の人々がミャンマーを民主化へ近づけていく」とつづった。

聞）を取り上げた。義足を装着した陸上選手の五輪出場に関し、「記事中の賛否両論や祖父、父の感想を整理し「人によって意見は全く違う」と驚きながらも、オリンピック豪意と調べ、「選

原発事故の被災者を支える
福島市の弁護士、横（まき）
裕康さんを取り上げた「復興のお仕事」⁷（8月10日、
朝日小学生新聞）を題材に
した。仙台で被災した自ら
の経験のほか、「企業を救
うため頑張っていた」銀行
員の父の行動や助言から、
「人の役に立つ仕事をした
い」と決意を記している。
また、最優秀賞の手代木
さんは、「ピストリウス義足
の挑戦」（8月4日、毎日新

手たちが納得できるルールをつくることが必要」と提言した。この他の道内入選者は次の通り。(敬称略)

【奨励賞】松田淳希、小島結衣(以上立命館慶祥中1年)、金城美穂(立命館慶祥中2年)、野口大輔(旭川市立春光台中2年)、福井悠都、館下綾乃(以上札幌市立平岡中央中3年)、高木奈々、遠藤汐梨(以上立命館慶祥高3年)

点多い2万5864点が寄せられた。優秀賞の幸田さんは、昨年の奨励賞に続く受賞。ミニ回は昨年より2566

ヤンマーの民主化運動指導者アウン・サン・スー・チー氏が、1991年に贈られたノーベル平和賞の受賞スピーチをした様子を報じて社会的事象の意味を考えるため、1991年（大正7年）8月ごろの富

「人の役に立つ仕事をしたい」と決意を記している。

また、最優秀賞の手代木さんは、「ピストリウス義足の挑戦」(8月4日、毎日新

立春光台中2年)、福井悠都、館下綾乃(以上札幌市立平岡中央中3年)、高木奈々、遠藤汐梨(以上立命館慶祥高3年)

当事者意識育つ教材

札幌市立幌南小校長
追分 充

NIEは、「授業の中で
の「ノン」を引きながら獎
しんでいる。

大会で、6年生の授業者として「米騒動」を教材化した時である。

どもたちに社会的事実・事象をいかにイメージ豊かにとらえさせられるか」や「い

山県魚津の女一揆を報道した新聞記事を探した。札幌市中央区北2条にあつた当時の市立中央図書館に足繁く通つた。フィルム状で保管されている大正時代の新聞を、ハ

一沖仲仕として米俵を運んで働いていたお母さんたちが、自分の仕事場である米屋の蔵を襲うということは、明日からの生活を考えられないくらい切羽詰まっていたんだ」と読み取り、

ニュースを（N）いつでも
（I）閲覧できる（E）」ま
たは、「New Info
rmation Entr
ance（新しい情報の入
り口）の略」——私はそう考
えている。

「沖仲仕として米俵を運んで動かして、お母さんたちを喜ばせた。」

NEDHは一機業の中で
ニュースを(N) いつでも
(I) 聞き放題である(E) ま

北海道新聞ホームページ「NIE」(www.doshin-nie.com/)でバックナンバーから閲覧できます

4 地区でNIEセミナー

2012年(平成24年)12月25日

北海道NIE推進協議会主催の地区セミナーが各地で開かれた。岩見沢・空知(10月26日・三笠市立三笠小、参加者30人)のほか、稚内・宗谷(11月3日・稚内市立図書館、同30人)、苦小牧・日高(12月5日・苦小牧市立清水小、同50人)、旭川(同7日・旭川市立永山南中、同30人)で、それぞれ公開授業や実践発表を行った。

震災報道を通じ成長確認 稚内

旭川・春光台中の福沢秀教頭(NIEアドバイザー)は、阪神淡路大震災が契機だった。地震の多い钏路に住む子どもの防災意識を高め、支え合う気持ちを育むことに、記事は有効だったと実感している。

新聞活用を始めたのは、阪神淡路大震災が契機だった。地震の多い钏路に住む子どもの防災意識を高め、支え合う気持ちを育むことに、記事は有効だったと実感している。

現在は、以下の3点を重視し実践を進めている。

①記事を読み聞かせ、学級通信にする

朝の会、帰りの会、総合的な学習の時間などで読み聞かせている。選んだ記事の大半は学級通信にも載せて保護者にも読

る新聞を取り入れるよう意識している。購読する家庭は減っており、購読している家庭の子どもも、読むのは主にテレビ欄やスポーツ欄だ。

釧路市立東雲小教諭 山本 真吾



NIE実践奮闘記

んでもらい、家族で共通の話題にできるよう工夫している。

②「生活に新聞を」「教育」以前に「生活」へ

最近はテレビの地上波デジタル放送が始まり、番組情報もファイターズの試合結果も、インターネットやネットやテレビのdボタンを押せば分かる。子どもはテレビ欄やスポーツ欄すら読まなくなつた。

一方、「新聞を読む」ことなどと思い込んでいる子どもは少なくない。現実的無理なく新聞に触れため、見出しやリード

読み聞かせでより身近に

るべきなのは恐怖や不安

ではなく、「希望」だと考

えた。

そこで、被災した人々

のマナーと道徳性の高さ

を称賛した海外メディア

の記事や、逆境に負けず

うちに伝えていきたい。

た思いだ。

「事件」ではなく、「人

「情」を読み取ることに

よ。

い。

<p

記事から学ぶ情報発信



新聞を使って授業を進める岩見沢緑陵高情報コミュニケーション科の2年生

岩見沢緑陵高

実践校 リポート

11月中旬に行われた2年生の授業「コミュニケーション基礎」は、恒例の1分間スピーチからスタートした。アイドルグループAKB48のファンクラブ会員下

げを報じた日本経済新聞の記事をあげた菊池百華さんは「値下げで小学生など低年齢のファンが増え、従来の会員は余ったお金でさらにグッズなどを買うはず。今後もAKBが経済的にどんな展開をするか楽しみ」と紹介した。

同科はコンピューターを使つたビジネス活動はじめ情報処理技術、商業デザインなどを専門に学んでいた。3年になるとグループ

が、アイデアを商業者らに提案するだけでなく、商品の開発、制作などに参加する点が特徴だ。

昨年度は地元産の米粉とワインを使ったプリンを商業者と開発した生徒たちがおり、市内の店や札幌のイベントに出品して好評を得た。本年度も、商店街を紹介するフリーペーパーを発行したグループがある。

こうした活動には、市民の問題意識やニーズを探り出し、強く訴えるプレゼンテーション力が欠かせない。「コミュニケーション基礎」は、新聞を教材として使つて、情報の読み取り方や効果的な示し方を指導している。

この日の授業は、川崎知文、深戸紀明教諭が担当した。札幌で行われた「そらくフェア」のようすを報じた北海道新聞の記事を示す

と生徒はキーワードや事実関係について「マインドマップ」という図にして整理しながら読解し、「究極空知の絶品ここに集結」「空

地域の課題研究に生かす

単位で地域の活性化を行なった課題研究を行うが、アイデアを商業者らに提案するだけでなく、商品

の開発、制作などに参加する点が特徴だ。

昨年度は地元産の米粉とワインを使ったプリンを商業者と開発した生徒たちがおり、市内の店や札幌のイベントに出品して好評を得た。本年度も、商店街を紹介するフリーペーパーを発行したグループがある。

こうした活動には、市民の問題意識やニーズを探り出し、強く訴えるプレゼンテーション力が欠かせない。「コミュニケーション基礎」は、新聞を教材として使つて、情報の読み取り方や効果的な示し方を指導している。

1月25日に室蘭

NIEセミナー

当協議会主催の第9回室蘭・胆振セミナーが1月25日午後1時30分から、洞爺湖町立虹田小(同町栄町59)

で、第11回帯広・十勝セミナーが2月9日午後1時30分から、北海道新聞帯広支社(帯広市西4南9)で開かれる。

室蘭・胆振セミナーは、虹田小の富樫忠浩教諭による6年生の国語科の授業を公開。帯広・十勝セミナーは、帯広・西陵中の野上泰宏教頭(NIEアドバイザー)が切り抜きや指導案作りの実習を行う。参加申し込みは協議会事務局(011・210・5802)へ。

実践報告者は次の通り。

◇室蘭・胆振セミナー
安平町立早来小・山下亘

教諭(文章表現の主題を新聞から探す)▽室蘭市立翔陽中・宗像美貴子教諭(国語科における言語活動の充実)

▽白老東高・森澤美佐子教諭(新聞局の活動を通じた思考力などの育成)

◇帯広・十勝セミナー
鹿追小・市原秀樹教諭(「新地球学」での展開)▽

日本新聞協会は、授業で新聞を活用するNIE実践指定校の2011年度新規開始校を募集している。実践指定校には道内の場合、新聞6~8紙を2カ月または4カ月間提供する。小中高校、高専、特別支援学校が対象で、新聞購読料は全額、同協会と各新聞社が負担する。新聞購読は来年5月から可能で、実践は3年間継続できる。応募締め切りは2月12日、申し込み問い合わせは北海道NIE推進協議会

13年度新規実践指定校を募集

事務局(北海道新聞社内☎011・210・5802)へ。

昨年度の小学校に続き、本年度からは中学校で新学習指導要領が実施され「言語活動の充実」のため、新聞を教材にした授業が行われている。13年度は高校へも拡大する。

同協会が認定した本年度の実践指定校は、全国で554校に上り、道内は31校で東京都に次いで多くなっている。

同協会が認定した本年度の実践指定校は、全国で554校に上り、道内は31校で東京都に次いで多くなっている。

教諭(文章表現の主題を新聞から探す)▽室蘭市立翔陽中・宗像美貴子教諭(国語科における言語活動の充実)▽白老東高・森澤美佐子教諭(新聞局の活動を通じた思考力などの育成)◇帯広・十勝セミナー鹿追小・市原秀樹教諭(「新地球学」での展開)▽

芽室町立上美生中・羽田尚史教諭(スクラップ活動)▽芽室高・石森由香利教諭(新聞局での活動を通じた情報発信力の育成)

お知らせ

道内高校新聞

5

ナウ

ス、電気・建築科など工業・商業系の4科あり、発表会は専門性の強い内容をいかに分かりやすく書くかが重要となる。

昨年度の紙面で発表会の記事を担当した大原英徳さんは、生徒たちの苦労などをつづつただけでなく、「新しい物を作るのも良いが、先輩たちが製作した作品を受け継ぐのも伝統を守る一つの手かもしれない」と提言もしている。

局員は資格取得やさまざまなコンクールへの出場で次ぐ優秀賞に選ばれた。局員は資格取得やさまざまなコンクールへの出場で忙しい。そのため編集会議

は地元にたくさんあるはず。読まれている手応えを感じました」と、山本絵理奈さん(3年)。この号は本年度の全道高校新聞コンクール写真部門で、最高賞に

留萌港やFMラジオ局など、例年より校外の話題を積極的に取り上げた。「行動する」事実を伝える以上に、『読みたくなる新聞』を作りたい。誇りと責任を持つ清水教諭は話す。

主観の入った書き方は、局員のモチベーションを高める効果も生む。同校は昨年度電気システム科の募集を停止、建設科が電気・建築科へと学科転換している。一昨年度のブランケット判で報じた際、決定の経緯や背景などは清

い。だが、3年生たちには落胆した様子はない。「人が変われば紙面も変わる。人が変われば紙面も変わることが大切です」と

は難しい」と残念そう。

これまで、私たちだけで作るの

が広告を出して支援して

とになった。地元の商店

が広告を出して支援して